にのみや気候市民会議

市民提案書

2025 年 1 月

もくじ

にのみや気候市民会議 市民提案書とは？ 1

にのみや気候市民会議が目指す、町の将来像 2

にのみや気候市民会議で大切にしたこと 4

市民提案 5

自然環境 7

エネルギー 15

移動 21

循環型社会 27

横断的な取り組み 34

市民提案の実現に向けて 35

気候市民会議を終えて 36

にのみや気候市民会議 参加者の声 37

参考資料 42

にのみや気候市民会議 市民提案書とは？

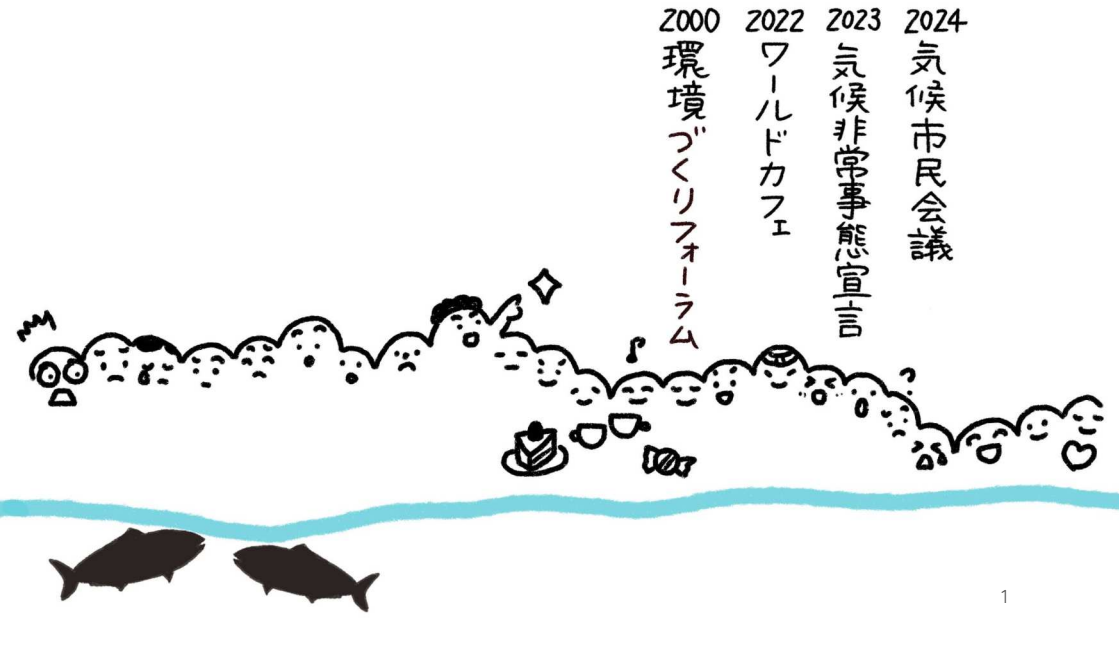
2023 年に、町と町民とが一丸となって発出した「二宮町気候非常事態宣言」をきっかけに、「町民がまちづくりに参加できる場をひらく」取り組みの一つとして、にのみや気候市民会議の開催に踏み出しました。

にのみや気候市民会議は、「千年続く循環するにのみやまち」への実現に向けた第一歩として、さまざまな世代の一般町民が、有識者から気候変動対策についての情報提供を受け、共に学びながら、「対話」を通して「まちのこれから」を考えていく会議です。

会議では１年間かけて、和気あいあいと熱気あふれる、にのみやらしい対話を重ね、町民として大切にしたいことを「市民提案書」として取りまとめ、二宮町へ提出しました。

海、山、大きく広がる空…。里山の原風景が息づく、ここ二宮町から、千年先を見据えてつくりあげた市民提案には、町民一人一人の想いが宿っています。

二宮町では、市民提案書を活用し、環境に関する各種計画の推進に役立てるとともに、町民一人一人の更なる行動変容につながるよう広く発信していきます。



にのみや気候市民会議が目指す、町の将来像

2023 年 5 月、二宮町は気候非常事態宣言[*1]を発令しました。この宣言が示したのは、自然の循環の中にあったかつての二宮の姿を取り戻すために、町民を始めとする多様な人々が協働によって自分たちの未来を築くビジョンでした。

その昔、二宮の人々は自然とともに暮らしていた。水は吾妻山などの森から、きらきらと流れていた。葛川や一面に広がる田んぼには、いろいろな生きものが住んでいた。野うさぎが駆けめぐり、とんぼが空を舞う里山の風景。子どもたちは目を輝かせて日が暮れるまで遊んだ。長く続く松林を越えると、100 メートルにもなる広大な砂浜が太平洋の遥かな海を迎えた。山の水を集める豊かな川の薫りと瀬の海は、年間 60 万尾ものブリの水揚げをもたらしたという。漁師たちが稲わらで編んだ網は、古くなると海の中でイセエビの漁礁に活かされた。すべては循環し、繋がりあう営みの中にあった。

しかし、現在に至るまでのあいだに、人々と自然との分断が進み、循環は途絶えかけている。気候危機をはじめとする地球規模での自然環境の損失は末期的な状況であり、人類への最終警告だ。温室効果ガスの排出削減を進めるとともに、自然と共生する豊かな未来への仕組みづくりが急務である。

地球上のすべての生き物は、38 億年の命を紡ぎ、今を生きている。生物多様性の大きな懐の中にわたしたちがいることを、新たに見つめなおそう。自然を回復させ、その恵みを誰もが享受しながら幸せに暮らすことのできるまちを、ともにつくろう。

二宮町では多くの先人たちの思いを受け継ぎ、2021 年より発足された「ぼくたちわたしたちの地球会議」を通して、子どもをまんなかに「千年続く循環するまちづくり」への歩みを進めてきた。町民・環境団体・行政が力を合わせてつくりあげてきた学びと実践の輪をさらに広げ、大きな力にしていこう。

[*1] 二宮町気候非常事態宣言，二宮町，2023 年 5 月，https://www.town.ninomiya.kanagawa.jp/mirai_dukuri/cmsfiles/contents/0000001/1997/kikouhijoujitaisengenbun.pdf

二宮町は、自然と共生する豊かな未来のため、ここに気候非常事態を宣言し、以下のことに取り組みます。

1. 全ての町民が自然の恵みを十分に享受できるよう、「千年続く循環するまちづくり」を実現します。
2. 問題解決に向けた仕組みを構築するために、町民・事業者・行政が、世代や立場を越えて、協働・共創します。
3. わたしたちの未来をつくるために、多様な学びの場と参加の機会を創出します。

上記を具体化する今後の目標や取組内容を定め、改善を繰り返しながら、実践を進めていきます。

“自然と共生する豊かな未来へ”, 二宮町気候非常事態宣言, 二宮町, 2023 年

にのみや気候市民会議が目指す「町の将来像」は、人と人との繋がりを大切とすることや自然環境との共生など、「二宮町気候非常事態宣言」で掲げたイメージと共通するものが多かったことから、市民会議メンバーの総意により、宣言文に示す「千年続く循環するまちづくり」を目指すこととしました。

宣言文にも示したことの取り組みの一つとして、にのみや気候市民会議の在り方を考え、今できることに挑戦しました。会議で大切にしたことは、次のページへ。

にのみや気候市民会議で大切にしたこと

わたしたちの未来をつくっていくためには、あらゆる人が互いに手を取り合いながら、知恵を出し合うことが欠かせません。さまざまな立場から、つながり協働することで生まれる可能性を信じて、会議では以下のことを大切にしました。

みんなが主役のまちづくり

多様な世代が学び合う 会議では、10 代から 90 代という広い世代の参加者による深みのある対話が生まれました。現代を生きるわたしたちは、将来の世代にどのような社会を手渡していくかを想像し、今できる選択や行動を考えていきましょう。

事業者もパートナー 日々の暮らしに身近な地域の事業者をオブザーバーとして招き、取り組みや課題を学びました。事業者ならではの実情を知ることは、わたしたちにできることを考える上での大きなヒントとなります。

町民らしさを大切に まちでの暮らしの専門家は、わたしたち町民です。会議の進行・運営サポートは、二宮在住の一般町民で構成される「環境づくりフォーラム・地球会議チーム」が担いました。町民だからこその情熱を糧にトライ & エラーを繰り返しながら、わたしたちの未来と向き合っていきます。

システムチェンジをめざす

気候変動は、地球上のすべての生命に影響を及ぼす可能性があります。世界中で社会システムの大転換が求められている今、個人の我慢や努力だけに頼るのではなく、社会の仕組みや制度そのものを捉え、改善する視点を持つことが大切です。あらゆる命を大切にできるような暮らし・社会のシステムの在り方を、みんなで考えていきます。

こうして、にのみや気候市民会議は全国にも類を見ない、手づくりの会議を実現。新たなコミュニケーションのあり方に挑戦しました。

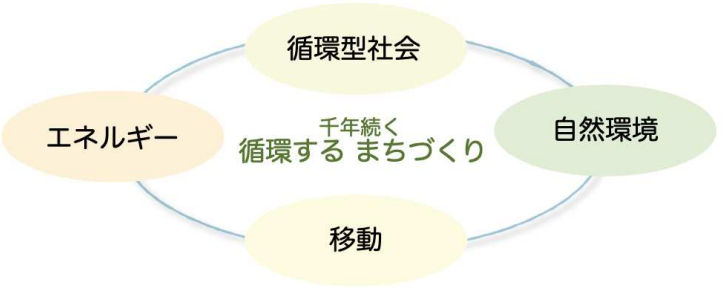
「町におまかせ」から「みんなで町をつくる」時代へと、歩みをすすめていきましょう。

＊会議の進め方などの詳細については、42 ページをご参照ください。

市民提案

「千年続く循環するまちづくり」の実現に向けて、二宮町として 2050 年までに進めていきたい取り組みを、以下の 4 つのテーマに沿って考えていきました。

わたしたちは、4つのテーマごとに 取り組みを提案します。



これら 4 つのテーマは、分断されることなく互いにつながり、補完し合うものです。わたしたちは、自然そのものの複雑で雄大な営みのように、暮らしや社会全体のつながりを捉えていくことが求められています。

自然環境班

保水力の高い里山

夏でも外で過ごせる町

自然はともだち

自然を大切にし、支え合い、活かします

全5フィールド共通

地域循環を促進するものことを優先的に使用

みどりの質・量UP!

手入れが学習・交流・癒しに

緑化で涼化

みどりの共有

恩恵をみんなでシェア

グリーンインフラ

学校では豊富な環境体験学習

環境条例

指標生物導入

耕作放棄地の活用

居たくなる海

大人も子どもも魚たちも

誰でも過ごせる川

議論した目標

- 目標 A: 山【保水力が高く魅力的な里山】
- 目標 B: 市街地【夏でも外で過ごせる町】
- 目標 C: 農地【耕作放棄地の利活用促進】
- 目標 D: 川【誰もが過ごせる川】
- 目標 E: 海【居たくなる海】

私たちが自然から受けている恵みを、地域の宝として、食や憩い、学習などに活用する。この循環が持続可能なものとなるように、みどりの質と量を高めていきたい。

これには行政の長期的な見通しを持った横断的計画と、町民が進んでみどりの手入れに参加したくなるようなシステムが必要です。

これらをまちぐるみで積極的に取り組むことで、気候変動のスピードを緩め、今を涼しく楽しく過ごすことと、未来の地球が快適であることの両立を可能にします。

目標 A：山【保水力が高く魅力的な里山】

現状

- 吾妻山は他市町からもわざわざ足を運びたくなるような魅力的な場である。
- 山林、竹林などは、一部ボランティア団体の手入れが入っているところがある。

課題と具体的な取り組み

- グリーンインフラを最大限に取り入れた、保水力を高めるような、里山整備。
  - 薪や炭、木材をはじめとする、各種材料、木の実、腐葉土などを宝として生かす暮らし。
  - 学生を取り残さず、あらゆる世代に、体験学習を通じた知識・技術の教育・啓発・普及・促進。
  - 山に入っていく竹には早急な対応が必要（今ある森林の維持）。
  - 二宮の風土、生態系に合った木を植える、在来種の復活。
  - 鳥が実を食べる木や、落葉樹をはじめとして、多様な木の植林。
  - 指標生物の導入。
- 有償ボランティアに頼らず、町民/事業者/行政が協働で持続可能な取り組みになるようなシステム作り。
- 吾妻山以外にも町民が足を運びたくなるみどりの共有地（コモン）が町内に点在する。
  - こどもたちが日常的に里山で遊べる環境作り。
  - アートフェスティバルなどを行えるような魅力的な里山づくり。
- 放置山林の地権者の割り出しや折衝の簡易化。
  - 国や県とも連携して、台帳のシステム化。
  - 折衝の一元化。

達成したらできること

- 山林の循環・更新が促進されることで、CO_2 が減少。
- 山林の更新技術の継承で、持続可能な取り組みとなる。
- 居心地のよい緑がふえる（心理的にリラックスでき、住み心地も良くなる、いきがいや交流・雇用も生まれる）。
- 日頃の楽しみと、自然との付き合い方を学ぶ場とを兼ねながら防災対策ができる。

目標 B：市街地【夏でも外で過ごせる町】

現状

・気温の上昇で、夏は屋外でスポーツができないことが度々ある。
・道路の舗装はアスファルトが中心で、気温が上がりやすく、雨水の浸透力不足が懸念される。

課題と具体的な取り組み

・運動場や行くまでの道のりも含めて、屋外で涼しく過ごせる場所を増やしていく。
  – 新庁舎をはじめとして、町全体のグリーンインフラ・有機土木率の向上と木陰作り。
  – 住民、事業者、行政で十分な話し合いを持つ。
・雨水の浸透力の高い場所を増やしていく（＝雨庭）。
・みどりの量と質を向上させていく。
  – 環境/景観条例（例：二宮版グリーンニューディール）の制定。
  – 緑視率の導入。
・斜面の法面も最大限グリーンインフラ化する。
・緑化にはその後の維持管理に人手が必要。
  – みどりの維持管理が癒し、学習、交流、雇用など生活の豊かさにつながるシステム作り。
・空き家の利活用（生産と活用の章へ）。

達成したらできること

・夏でも屋外が過ごしやすく、屋外スポーツが可能な環境の維持。
・冷房の使用が減り、CO_2 の削減につながる。

目標 C：農地【耕作放棄地の利活用促進】

現状

- 農家さんの数は減り、耕作放棄地が増えている。
- 農ある暮らしを楽しむ町民は増えている。

課題と具体的な取り組み

- 地域循環を促進する、環境配慮型の農業/農ある暮らしの一層の普及。
  - 地域循環を促進する、環境配慮型 食品を学校給食で優先的に使用。
  - 地域循環を促進する、環境配慮型の農業/農ある暮らしを町をあげて推奨する。
  - 落ち葉を可燃ごみにせず、たい肥として活用。
  - 草を味方につけるための知識・技術の普及。
- 田畑、山、その他のみどりの共有地（コモン）として活用していく。
  - 落ち葉ステーションに。
  - 山に戻していくところには適切な手入れを行う。
  - 町民が利用しやすくなるよう、地権者の割り出しや折衝が楽に行えるようになるシステムづくり。
- 指標生物の導入で田畑の質を高める。

達成したらできること

- 地域自給率を高め、CO_2 の排出削減につなげる。
- 草との共生で雨水の浸透力、保水力が上がり、減災につながる。
- 地元にある、手にとれるものと自分たちとのつながりを感じることができる。
- 適正な手入れにより、鳥獣との棲み分けが適度になされる。

目標Ｄ：川【誰もが過ごせる川】

現状

・葛川清掃のボランティアが年に数回の清掃を行って下さっているが、一向にごみがなくなる様子がない。
・この町で川遊びを自分だけで気軽に行えるイメージは少なく、実際に川に触れる人は稀。

課題と具体的な取り組み

・大人は足を浸したくなり、こどもは川で遊びたくなるような清流にする。
  – ごみのポイ捨てをゼロにする、使い捨てプラスチックゼロ、美化活動の継続。
・環境と防災の学習、交流、生きがいづくりの場にもなるような、みどりの共有地（コモン）を増やす。
  – 流域でグリーンインフラを最大限取り入れた、護岸、親水施設、遊水・浸透施設作り。
  – 日頃は遊び場、憩いの場、学習の場、いざとなったら貯水できる場の確保。
・流域排水の美化。
  – 環境負荷の低い洗剤の使用、下水処理の整備。
・河川とその周辺のみどりの質と量を高める。
  – 指標生物や緑視率の導入と、ロゴマークや体験学習などを通じて指標生物を身近に感じられるまちづくり。
・流域の市町村と協力する。
・中井町や大磯町、小田原市などと一緒に話し合いの場を持つことからはじめる。

達成したらできること

・さんぽ、釣り、川遊びなど日頃の楽しみと、自然との付き合い方を学ぶ場とを兼ねながら、防災減災もできる。
・グリーンインフラの導入や緑化で川沿いが涼化される。

目標 E：海【居たくなる海】

現状

- 遊泳は禁止されているものの、釣りや犬の散歩で海を利用する人もいる。
- 護岸はテトラポッドをはじめとしてグレーインフラが中心。

課題と具体的な取り組み

- 良好な景観で居心地アップ。
  - テトラポッドなどのグレーインフラのあり方の見直し、グリーンインフラを最大限活用する。
  - ごみのポイ捨てゼロ、プラスチックごみゼロ。
- 生物多様性の価値の見直し（安全、安価、便利とのバランス）。
  - 指標生物の導入、海藻による CO_2 吸収の評価（＝ブルーカーボン）。
  - 松枯れ対策は、農薬の使用でなく、土壌環境や他生物との共生など、根本的な解決や理解を図る。
- 流木を薪や木工品として活用し、ごみを減らす。
  - 流木を見た目にも美しく、適正管理し、資源として活用する。

達成したらできること

- ひとも含めた生き物の居心地よい空間をつくることで、海にも居たくなる、来たくなる町へ。
- ブルーカーボンをはじめとした海周辺の緑化と生物多様性により CO_2 が減少。

山/川/農地/市街地/海 全フィールド共通の提案

1 自然を地域の宝として活かし、循環を促進させる

・地域循環を促進する、環境配慮型のもの/ことを優先的に採用する。
・こどもや若者も含めた、あらゆる世代に、自然との共生についての体験学習の機会を豊富に設ける。

2 みどりの質と量を高める

・保全エリアや環境/景観条例の制定。
・グリーンインフラ/有機土木を最大限に使用する。
・指標生物や緑視率を導入し、ひとにとっても生き物にとっても、居心地のよさを高める。
・協働で管理し、恩恵をシェアできる、みどりの共有地（名称案：コモン）を増やす。

3 持続可能な取り組みにしていく

・対話が十分に行われる。
・行政は教育委員会を含めて、各所の計画や事業に横断的に反映させ、予算を計画的に確保。
・町民が自らすすんでみどりの手入れを行いたくなるシステム作り。

上記に早急に取り組むことで、気候変動のスピードを緩め、今を涼しく楽しく過ごすことと、未来の地球が快適であることの両立を可能にします

エネルギー王国

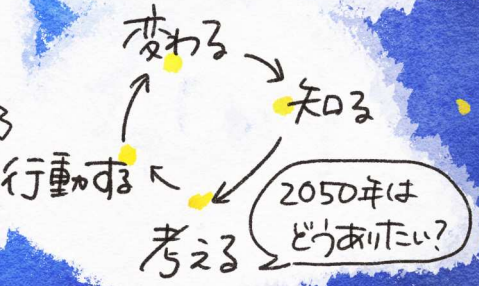
二宮からはじまる 星降る町

環境にいいことが自然とできる町

夜は自然と暗くなる

環境問題を解決する人材を育てる

ゼロカーボン達成



議論した目標

- 目標 A: 環境にいい暮らしが自然とできる二宮町
- 目標 B: 夜は自然と暗くなる二宮町
- 目標 C: 環境問題を解決する人材を育てる二宮町
- 目標 D: ゼロカーボン達成の二宮町

絶え間なく情報が溢れる超スピード社会の中で、膨大な情報処理と、加速するエネルギー消費に追われている私たちは、本当に消費エネルギーが増え続けるような現在の暮らしを望んでいるのでしょうか？ エネルギー班では、エネルギーの作り方、使い方を考えることで、生命とともに生きる源である在り方、暮らし方へも議論が広がりました。答えはすぐに出なくても、考えて話し合う過程を持ち続けることを忘れてはならないのだと気づきました。

目標 A：「環境にいい暮らしが自然とできる二宮町」

現状と課題

個人の消費行動や意識向上に頼っている現状では、好循環の変化の連鎖は生まれてこない。

具体的な取り組み

1. 環境サポート窓口の設置

- 巷で人気のある移住相談ならぬ、エコ相談機能をもつ窓口を制度化する（エコ住宅ガイドラインや補助金情報などを個人で調べるのは大変だが、わかりやすく見える化されていて、申請などのサポートも可能な窓口の設置）。
- 化石燃料由来の電力から再生エネルギー由来の電力に切り替えるためのサポート（一人暮らしの方や、デジタルに疎い人も安心できるサポート体制）。

2. カンタン！ 手続きシステムの開発

- 補助金申請など煩雑で手間がかかり、忙しい中での時間のやりくりが大変。そこで、各種手続きをシンプル＆簡単にするためのシステム開発を企業と行政と連携して進める道筋を創っていく。（まずは定期的に話し合う場づくりから）。

達成したらできること

ただ暮らしているだけで、環境負荷の低い暮らしの実現

目標 B：「夜は自然と暗くなる二宮町」

現状と課題

ネオンや繁華街のない二宮町は、現時点ですでに、夜は自然と暗くなる町である。ただ、この先の未来に向かってもそう在り続けられる確証はないのが課題。これからも過剰な電気を使わないまちづくりを続けていくための方策が必要である。

具体的な取り組み

対話の機会をまちづくりや学校教育の中で取り上げる

→「夜は自然と暗くなるってどういうこと？？」をテーマに掲げる（exきっと人それぞれのイメージを持つだろう… パチンコ店やゲームセンターなどのネオン？ お店の営業時間？ 居住区と商業区の違いは？ 夜早めの時間に家に帰るには？ 働き方、労働時間、人間らしい生活とは？ 社会の在り方はどうなの？）みんなで考え、話し合う機会を持つことがこのテーマの狙い。

過剰な電力消費が増えないように条例として定める

新規営業を始める事業者などに有効な、規制を伴う条例づくりが望ましい。また、スーパーやコンビニと連携して、店内の空調や常温の飲み物販売推進など、消費者と事業者の意見交換を定期的に持つ、など

防犯上大切な街路灯は LED100% で、必要な場所に設置する

達成したらできること

- 夜が自然と暗くなる町で、不必要な刺激を避けることができ、心穏やかな暮らしの実現。
- 夜空を見上げれば当たり前のように星が見える二宮町は、都市からの移住先として注目される。

目標Ｃ：「環境問題を解決する人材を育てる二宮町」

現状と課題

現状の社会システムや学校教育現場では「この社会は自分たちで創るんだ！」という主体的なこどもを育てることにはまだ繋がっていない。大人たちの学びやこれからの社会システムを創り出す必要がある。

具体的な取り組み

環境人材を育てる仕組みづくり

→幼少期に自然の中でたっぷり遊ぶ子育て環境をつくり続ける（自然に触れることで培われる感覚が人の育ちには大切と考える）

- 体験の機会を増やし、センスオブワンダー（神秘さや不思議さに目を見張る感性）を育てるまちづくり。
- 体験の機会を増やし、環境に興味のある人を増やし続ける。

環境教育

→町内の環境団体と繋がり、総合の授業に二宮ならではの環境教育を組み込む。

→大学と協定を結び、環境学部への奨学金制度をつくる。

達成したらできること

- 幼少期から多くの自然環境の中で遊び、豊かな体験を積むこと、また、学校でも地域でも環境教育に触れる機会が多いことで、二宮ならではの環境スタンダードが定着している。
- 第二の江守先生のようなグローバルな人材がどんどん生まれる教育環境づくりができている。

目標 D：「ゼロカーボン達成の二宮町」

現状と課題

気候非常事態宣言を発出した町として、2050 年に向けて達成できる取り組みを提案しているが、その取り組みを実現していくには、二宮町全体の行動や仕組みづくりが欠かせない。

具体的な取り組み

部門別削減を４つの小グループとして攻略方法を決める

（定期的に、「わいわいがやがや」と話し合う場を持つ）４つの小グループとは「産業」「業務その他」「運輸」「家庭」である。

他の班から出る提案などを横断的に柔軟に取り組める組織づくり

達成したらできること

- 達成するための疲弊や犠牲が起こることのないように、知る→考える→行動する→変わる のサイクルを真摯に見つめて取り組む姿勢ができています。
- 脱炭素化が進んでいる町として、人口流入が期待されます。

移動型王

二宮町 まるごと

公園化計画

～いつでも人に出会える
人とのふれあいができる町～

目に見えるメリットを示して
きっかけづくり

楽しく歩ける町

歩くとおトクになる仕組み
- おでかけ処
- 歩道・車道の整備
  - ↳歩きやすい道

歩くことのメリットを示す
- ↳健康・自然・出会いのほほん♪

移動の前に
考えよう

この移動って
車使う？

課題：荷物（へらす）↓、時間（ふやす）↑

↓

移動販売、御用聞き

↓

地域社会再生

↓

犯罪も減る?!
認知症予防?!

バスに乗ろう！

- 乗降自由区間をふやす
- コミュニティバスの無料化
  路線見直し
- バス路線を知ろう

自転車を使おう

- 電動アシスト自転車の普及
  - ↳試乗会、補助金
- 自転車で走りやすい道づくり

♪ 移動に伴う環境負荷の軽減 ♪

議論した目標

・目標 A: 楽しく歩ける町
・目標 B: バスに乗ろう！
・目標 C: その移動って車使う？
・目標 D: 自転車を使おう

A~D の４つの目標に必要なことで、共通するものは、目に見えるメリットをはっきりと示すことです。それがきっかけとなり、気候変動をはじめとする環境問題について考える機会が生まれたり、町民同士の繋がりが生まれるはずです。二宮町全体を公園化することで、コンパクトに移動しやすくなるとともに、二宮町を大切にする気持ちが生まれるのではないかと考えて目標を設定しました。

目標 A：「楽しく歩ける町」

現状

・歩いて移動できる距離にもかかわらず車を利用している人が多い。→ CO_2 排出量が多い。

課題の設定

・移動手段として『歩く』を選ばないのはなぜか？
・『歩く』意欲がわかないのはなぜか？
・『歩く』ことにメリットを感じられないのはなぜか？

具体的な取り組み

・徒歩での移動（歩くこと）が楽しく、かつ楽になるようにする工夫。
・歩くとお得になる仕組みづくり、歩くとお得になるキャンペーンなどの開催。
・いつでも休憩できるベンチ（サポーターベンチなど）の設置。
・出会った人と自然と会話が弾む場所、いどばた会議ができる場所をたくさんつくる。
・「まちなか美術館」や「まちなかガーデン」など、見て楽しい場所をあちこちにつくる。
・車道や歩道の整備を進め『歩きやすい道』を増やす（住民提案で行政が動く仕組み作り）。
・歩くことのメリット（健康、自然、出会い、のほほん…）を提示する（啓発活動）。

どんな効果が期待できるのか

『歩く』移動が増えると…

・町民同士の出会いが生まれる（住民同士の交流機会が頻繁になる）。
・自然に触れる機会が増える（自然環境への関心が高まる）。
・健康になれる（町民の健康増進、認知症予防、老化防止、体力維持などに繋がる）。
・歩く人が増えると防犯に役立つ。
・人とのつながりが増えることで、犯罪の防止に繋がる。
・車に乗る人が減り CO_2 排出量の削減に繋がる。

目標 B：「バスに乗ろう！」

現状

・乗り降りが不自由、不便、運賃などの費用負担（自家用車と比較した時の公共交通での移動にかかる費用の高さ）などを理由に、バスに乗る人が少ない。

課題の設定

・不自由さや不便さを解消するにはどうしたらよいのか？
・費用負担を少なくする、負担感を小さくするにはどうしたらよいのか？
・乗客を増やすにはどうしたらよいのか？

具体的な取り組み

・家族や友人と移動について考えてもらう（バスでの移動を選択肢の一つとしてもらう）。
・バスの路線を町民にはっきりと周知させた上で、路線ルートはすべて乗降自由区間とする。
・（財源確保の課題はあるが）コミュニティバス（にのバス）の無料化や運賃の割引を実施し、それを広く町民に知らせて、利用に結びつける。
・通勤・通学、買い物や通院などの利便性を向上させるため、町内を走るバス路線の見直し（町民から行政や企業への提案）を行い、乗客（利用者）の拡大に繋げる。

どんな効果が期待できるのか

・こどもから高齢者まですべての世代が、さまざまな目的地まで自由に行き来できるようになる。
・町内のバス路線の拡充が図られ、車に乗る人が減り、CO_2 排出量の削減に繋がる。
・バス停やバス車内での交流により、高齢者の孤立・孤独問題の解消に繋がる。

目標Ｃ：「その移動って車使う？」

現状

・町内外で買い物をする際、荷物の重さ、時間のなさ、手間の大きさなどを理由に、車に乗って出かける人が多い。
・通勤・レジャーなどで車を利用している人も多く、他者とのつながりが希薄になっている。

課題の設定

・移動手段として『クルマ』を優先してしまうのはなぜか？
・移動のために割く時間がもったいないと考え、タイムパフォーマンス (時間対効果) を優先 してしまうのはなぜか？
・買い物に『クルマ』が必要と感じるのはなぜか？
・車の利用を減らすにはどうしたらよいか？

具体的な取り組み

・家族や友人と移動について考えてもらう（車での移動が必要かどうかを考えてもらう）。
・それぞれが車でスーパーなどに行くのではなく、（二宮町内の商店に協力してもらう形で）自宅から歩いて行ける場所を拠点とした移動販売を実施する。
・かつては当たり前にあった「御用聞き」の復活を進める（社協などとの協働で、御用聞きによる高齢者見守りの仕組みづくりを行う。）
・近所への買い物や用事は『脱・クルマ』を心がけるようにする（※通勤やレジャーなどでの利用は妨げない、車の利用を制限する取り組みは推奨しない）。

どんな効果が期待できるのか

・(車で移動しないことで)、時間や心の余裕を持つことができる。
・移動販売を利用することで、買い物に関わる移動や荷物の運搬を軽減できる (高齢者の長距離移動や大荷物が要因の負担を減らすことができる)。
・御用聞きによる高齢者の見守りが可能となり、地域社会の再生に繋がる。

目標Ｄ：「自転車を使おう」

現状

・二宮町内は坂道が多いため、自転車での移動が困難である→車での移動が多くなる。

課題の設定

・自転車での移動を促すにはどうしたらよいのか？
・自転車の利用者を増やすためにはどうしたらよいのか？
・移動を車から自転車に切り替えてもらうにはどうしたらよいのか？

具体的な取り組み

二宮町は坂道が多いことを考慮し、電動アシスト自転車の普及を進める

・電動アシスト自転車の購入時に際して公的な補助金をつける。
・電動アシスト自転車の試乗会を行い、広く町民に知ってもらい、利用の拡大に繋げる。
・歩行者の安全にも配慮した、自転車で走りやすい道路などの整備を提案する。

どんな効果が期待できるのか

電動アシスト自転車の普及が進むと…

・町内を自転車で回れるようになる。
・（徒歩での移動と同様に）町民同士の出会いが生まれる。
・（徒歩での移動と同様に）自然に触れることができる。

循環型社会班

生ゴミ
100%資源化

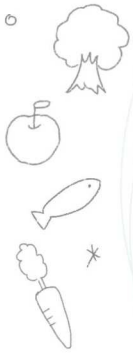
空き家から
再生する家へ

あらゆる資源がぐるぐるまわる
ごみ0(ゼロ)の暮らし

ぐるぐるコンポスト

プラスチックさよなら
チャレンジ!

ゴミは資源!



つながりがめぐる やさしい町

おすそわけや助け合いで
困りごとを解決

さまざまなどうぞプラットホーム

友産友消

人と人がつながって
今あるものを
分け合える

シェアアプリ

どうぞセンター

どうぞマルシェ

顔が見える人がつくったものを
買い食べつかう

身近で作られた
もの、ことを応援

シェア畑

生産者育成

ものコトト場所の共有で
地域のコミュニティが豊かに

議論した目標

- 目標 A: あらゆる資源がぐるぐるまわる、ごみゼロの暮らし
- 目標 B: 人と人がつながって、今あるものを分け合える町
- 目標 C: 顔の見える人がつくったものを買い・食べ・つかってうれしくなる町

「暮らしに関わるすべてのものが循環する町」を実現することで、将来世代への負担を減らし、心穏やかに過ごすことのできる町を目指します。消費〜廃棄までの過程のみならず、生産〜流通における段階から、資源が循環するシステムへと転換する必要があるため、さまざまな立場からの連携を深めることが求められます。

とりくみ①「町内の生ごみ 100% 資源化へ。にのみや型の循環システムをつくる！」

できるかぎり環境負荷の少ない方法で資源化し、堆肥や土に生まれ変わった資源は、地域の学校、公園、街路樹、農地などで活用することを提案します。

- 生ごみを「資源」として捉えることを町が宣言し、周知する。
- 町民・事業者・行政・専門家とが協働して「ぐるぐるコンポストラボ」を立ち上げ実証実験を行い、地域内モデルをつくる。→システム化し、町内全体へ広める。
- 町におけるごみの現状を数値化し、町民が把握できるシステムが必要。

現状と課題

- 町内で出るごみのうち、6 割以上が可燃ごみで、さらにその 6 割以上が水分であり、水分を燃やすためにより多くの燃料と税金を使っている。「ひとしぼり運動」などの個人努力だけでは解決に至らないため、システムごと見直すことが必要。
- 町内の可燃ごみに含まれる「生ごみ」「草木」などの有機物を、再資源化するシステムが乏しい現状がある。有機物を自然に還すサイクルを確立させることが必要。

議論したアイデア

- 竹林整備で出た竹でコンポストや水分減量装置を作り、資源化率のデータ化やモニタリングを行うことで、小さな成功事例をつくる。
- 現状の個別集積所に、会員制コミュニティコンポストを設置する。
- 事業者から出る生ごみの活用も検討する。
- 学校給食における残飯や給食センターから出る生ごみは一定の安全基準を担保しやすいため、優先的に資源化を行っていく。

達成したらできること

- 「生ごみ」の概念が「資源」に変わることで、住宅の多い二宮だからこそ町民の意識変容に効果大。
- 生ごみの資源化の過程が目に見えてわかることで、循環する暮らしをイメージできる。
- 将来的にごみ処理にかかる予算が削減され、必要なところに予算を回せるようになる。

とりくみ②「プラスチックさよならチャレンジ！」使い捨てプラスチックのない町へ。リデュース・リユース・リサイクルを町ぐるみで促進させることを提案します。

・町役場や学校などの公共施設、町内の地域行事などにおいて、使い捨てプラスチック「ゼロ」の取り組みを率先的に実施・発信する。各組織/団体と連携し、実施方法を探る。
・町内の個人商店とも連携し、使い捨てプラスチックを減らすシステムを検証する。

→町全体に、日常的な使い捨てプラスチックゼロのを暮らしを

現状と課題

・食品などのあらゆる加工品は使い捨て前提の包装がされており、マイクロプラスチックなどの問題も深刻。使い捨てプラスチックを根本的に減らすシステムづくりが必要。
・地域行事や個人商店の充実した町の特徴を活かし、日常のなかでできることのニーズの把握や、ポテンシャルを引き出していくことが必要。

議論したアイデア

・買い物時のマイ容器利用を促進するため、にのみや式のポイント制度を導入する。
・店舗側にもリユース容器を導入しやすいサポート（補助金活用）を行う。
・学校における使い捨てプラスチックの教材や給食の包装を、リユースまたは生分解性 100% のものへ転換する。

達成したらできること

・暮らしに身近なところから取り組むことで、町民の意識変容に繋がりやすい。
・使い捨てごみの出ない暮らしが「特別」ではなく「当たり前」の習慣になる。
・使い捨てごみが減ることで、気候変動対策のみならず、町の景観保全にも繋がる。

とりくみ③「空き家」から「再生する家」へ。にのみやの自然や風土を守りながら、すでにある住まいの可能性が広がり、わくわくで溢れる町をデザインすることを提案します。

- にのみや式の「自然・風土に寄り添う住まいの在り方」を議論し、自然や風土を守るまちづくりを前提とした、住まいの指針をつくる。
- にのみやの自然や風土を守ることに賛同する事業者リストを作成・公開し、誰もが情報を手に入れやすい環境を整える。
- 実際に空き家を活用した相談窓口を町内に設置し、誰もが、にのみや式の「自然や風土に寄り添う住まいの在り方」を体感できるようにする。

現状と課題

- 空き家は「最大のごみ」とも言われ、超少子高齢化社会を見据えた住まいの在り方を、町全体で見直していくことが必要。
- 空き家バンクが形骸化しており活用されにくい現状があるので、新たな切り口が必要。
- 今ある自然をこれ以上壊さないために、過度な宅地開発を抑制しながら、すでにある建物を活用/再生するまちづくりへと転換することが必要。

議論したアイデア

- 空き物件の活用アイデアコンテストや空き家再生ツアーを実施するなど、地域のニーズを把握し、優れたアイデアを集めるための取り組みを行う。
- 地域で大切にしていきたい建物は、地域でケアできる仕組みをつくる。
- 空き物件をデザイナーや文化活動の拠点に活用することで、地域がより豊かになる。

達成したらできること

- にのみやの自然や風土と住まいの関係性を提示することで、町民一人ひとりが「にのみやらしさ」を主体的に守り繋ぐことができる。
- 二宮ならではの自然風景を守りながら移住者や関係人口を呼び込むことができ、持続可能な町になる。

・住まいに関する相談窓口が身近にあることで、手付かず状態となる前に、建物の活用方法を検討できる。
・既築建築物の活用は、地域の防犯防災にも繋がる。

目標 B：人と人がつながって、今あるものを分け合える町

とりくみ①さまざまなところに「どうぞプラットフォーム」を！ 人と人が繋がり、あらゆるモノ・コトを分け合うことのできる循環システムをつくることを提案します。

- 事業者と連携して、町公式のシェアアプリをつくる。（モノの交換や売買だけでなく、できる「コト」を地域間でシェアできるような仕組みがあると良い）。
- 町のさまざまなところに「どうぞ受け取りスポット」を設置し、いつでもモノが授受しやすいシステムをつくる。
- 空き倉庫などを活用した「どうぞセンター」をつくり、リユース・リサイクル・アップサイクルなどがその場で完結し、循環を実感できるような施設をつくる。

現状と課題

- ごみを減らすためには、何でも「捨てる」習慣から「活用する」習慣への転換が必要。
- 今ある資源を最大限活用するために、あらゆる方法で「繋がり」をデザインすることが必要。
- 町の公式なプラットフォームをつくることで、健全で安心なやりとりができる。

議論したアイデア

- 地域での物々交換「どうぞマルシェ」の開催など、定期的な資源循環イベントの開催。
- 二宮版「ジモティー」のような、町公式のアプリの導入。
- 公民館の利用を促進する仕組みをつくり、「空間」の共有もしやすくする。

達成したらできること

- 規模がコンパクトで人と繋がりやすいという町の特徴を活かし、システム化することで、誰でも気軽に、資源の循環サイクルに参加することができる。
- 「モノ」としての資源のみならず「コト」としての資源も共有することができれば、地域の繋がりがより豊かになる！ さらには、町民のメンタルヘルス、コミュニティの活性化、地域の防犯対策などへの効果も期待できる！

目標Ｃ：顔の見える人がつくったものを買い・食べ・つかってうれしくなる町

とりくみ①繋がりのある地域づくりを促進し、「友産友消[*1]」であふれる町をデザインすることを提案します！

- 一定の距離内で生産されたもの、環境に負荷のない生産方法のもの、などの町独自の一定の基準をつくり、町全体へ広める。
- 公共施設などで、上記の基準を満たした食材の提供をすすめる。
- 町内の生産者へのサポート体制を手厚くし、新たな生産者の育成に繋げる。

現状と課題

- 食品や生活用品などを購入する際、環境に優しい商品を選ぶ基準のわかりづらさを解消することが必要。
- 大量生産されたものは便利で安い一方で、気候変動を加速させている大きな要因でもあるので、できるかぎり身近な地域でつくられたもの/町内でつくられたものを応援するような仕組みが必要。
- 大規模な食糧危機や経済危機のリスクをできるだけ減らせるよう、地域の自立を目指していくことが必要。

議論したアイデア

- にのみや独自の基準を満たした「トモトモ」認証ラベルをつくり、町内に広める。
- トモトモ認証商品にジョイカードのポイント特典を付ける。
- 学校給食にも「友産友消」食材を取り入れることを町が宣言することで、環境配慮型農家や地域農家の支援に繋げる。
- すでに存在する地産品を、町のふるさと納税品に取り上げたり、日帰りツーリズムなどとタイアップしたり、二宮産ブランドを盛り上げる取り組みを行う。

達成したらできること

- 環境負荷の少ない選択肢を可視化することで、日々の暮らしのなかで、環境に良い行動を自然と取り入れられる。
- サスティナブルな買い物ができる町として、新たな観光資源としても期待できる。
- 顔の見える相手との主体的なやりとりが生まれ、充足感のある暮らしが実現できる。
- 地域内での生産活動が盛んになることで、新たな雇用が生まれ、自立した町になる。

[*1] 身近な繋がりのある人が作ったもので暮らしに必要なものを手に入れたり、近所同士での「おすそわけ」や、地域内での「助け合い」で困りごとを解決したりすること。地産地消よりも、繋がりを大切にする意味を込めたことば

ミライのにのみや
吾妻山以外にも
みんなで手入れし
活用・学び・楽しめる
みどりを増やす
夜は自然と暗くなる
耕作放棄地活用促進
木陰やベンチが町中に
シェア公園
草を味方につける
人と人がつながり
あるものを分け合える
雨庭があちこちに
保水力の高い山
気候風土に合った植栽
町中にどうぞ
プラットホーム
友産友消
生物指標導入
みどりの量と質UP!
Super Market
どうぞセンター
地域循環を推進する
環境配慮型のモノ・コトを
優先的に利用
プラスチックOゼロ
体験学習が
豊富
バスの利用
夏でも外で過ごせる町
環境条例
緑視率導入
エディブルスクール
顔が見えるものをつかう
エネルギーを
つくるためるへらす
楽しく歩ける町
エコ住宅ガイドライン
電力切替サポーター
学校と環境団体を
つなぐ
川の親水化
魚も人も誰でも
過ごせる川!
窓ローえ化
メリットの見える化
再生する家
ゴミOゼロのくらし
ゴミのポイ捨てゼロ
自転車利用
まちなかガーデン
グリーンインフラを最大限使用
町中に
対話の機会が
あふれている
居たくなる海
まちなか美術館
あらゆる資源がぐるぐるまわる循環型地域

横断的な取り組み

すべてのテーマに共通する取り組みを、以下に提案します。

循環するまちを、ここから “循環するまちづくり” を促進するモノ・コトを、町の計画づくりなどのテーマとして取り入れていきます。小さなことでも、地域でできることから一つひとつ実践を積み重ねていき、お手本になるようなまちへ。

地域まるごと学びの場 一番身近な自然は地域にあります。“循環するまちづくり” を町内の学校全体のテーマとして位置づけ、こどもたちが地域の自然資源に出会う機会を増やし、生きた学びを大切にします。また、学校のみでなく、こどもから大人まで全世代が学べる機会をつくります。足元を見つめることで、世界と繋がるような学びを。

自然界をお手本に 自然界には、人間社会が考える行政区のような境界線は存在しません。流域[*1]や生態系などを俯瞰することで、わたしたち人間の暮らしを捉えていく知恵をもらいましょう。地球上のすべての命は繋がっているように、行政の枠組みを越えた連携を深め、繋がり、学び続けることが必要です。

庁舎を発信拠点に 庁舎を “循環するまちづくり” としての発信拠点にし、あらゆる取り組みやイメージの可視化を行い、ありたい未来をデザインしていきます。

[*1] その地形により降った雨が水系に集まる、大地の範囲・領域のこと。流域による水の循環は、水資源確保や災害予測などの面から社会的に必要性が高く、生きものの生息環境を考えるうえでも、大切な基盤です。洪水や渇水、土砂崩れなど、自然災害は行政区単位ではなく、流域単位で発生します。

市民提案の実現に向けて

町に求めることと、わたしたちも行動しつづけること、両輪で。

- “循環するまちづくり” を町の研究テーマとして位置付け、提案後の進捗状況を、今後も議論できる場づくりが必要です。
- にのみや気候市民会議での学び・気づき・成果を町全体に広く発信・周知し、町民主役のまちづくりが持続するような働きかけが必要です。
- 自然環境やまちづくりに関する議論をさらにすすめていくために、行政と事業者と町民の連携体組織をつくるなど、あらゆる主体が連携し合う仕組みが必要です。

気候市民会議を終えて

二宮で長く暮らしている人と、移住者や若い世代とが混ざり合って話し合ったことは、わたしたち会議参加者の財産となりました。

にのみや気候市民会議で実現した、「わいわい、がやがや」と語り合うことのできる、この町ならではの対話の時間。

気候変動対策をめぐる、これからのまちづくりを考えたとき、わたしたちはいつの間にか「日々の暮らし」そのものを見つめていることに気がつきました。

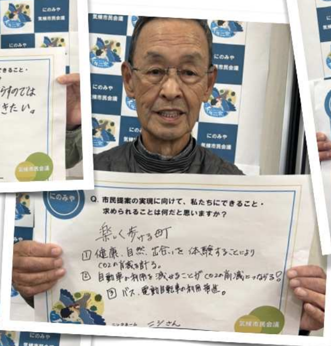
“まちづくりはドラマである”第二回講師である井上岳一さんによる言葉です。

地球の歴史の物語からすると、私たち人間の一生は一瞬ですが、だからこそ、今ここで共に生き、生かされていることの喜びを、みんなで分かち合うことのできる二宮町の物語を、紡いでいきましょう。

にのみや気候市民会議 参加者の声

Q. 市民提案の実現に向けて、私たちにできること・求められることは何だと思いますか？
自然と共にくらすを深掘り。
くらしを見つめる
余白のあるくらし
ヨッシー
① 夏こそ外!!
② おいしく楽しく自然を満
③ みんなと話すこと続ける
なかいちゃん
・老人世帯への健康
・安否確認と買物の補助!
生ゴミをしぼって
町の予算をしぼり出す。
トリ
さまざまな主体が連携し
パワーを出し合う二宮町
ちょうちょう
学校でしっかりとした環境教育が
行われる町!
＋
部活にいくとき
はなるべく歩く!
ムダな買い物
をしない!
サク
フードロスを少しでもなくし
生ゴミをコンポストを使って
推肥化していきます。
カブさん
みんなで考えれば
どんなことでもできる!
つっちー
カーボンシティへ
① CO2排出量調査
② 部門別削減目標
③ 御門の削減戦略
④ 費用は?
⑤ 日程作製
1人1人の小さな
意識の進化
ボナ

Q. 市民提案の実現に向けて、私たちにできること・求められることは何だと思いますか？
消費、排出を一気に減らすのではなく、少しずつ減らして行きたい。
無理なく
マーシー
気候市民会議


Q. 市民提案の実現に向けて、私たちにできること・求められることは何だと思いますか？
楽しく歩ける町
① 健康、自然、出会いを体験することにより CO2の削減を計る。
② 自動車の利用を減らすことが CO2の削減につながる!?
③ バス、電動自転車の利用促進。
気候市民会議

Q. 市民提案の実現に向けて、私たちにできること・求められることは何だと思いますか？
たくさん勉強すること!
やまと
気候市民会議

Q. 市民提案の実現に向けて、私たちにできること・求められることは何だと思いますか？
人と人との繋がりを持ち ここ二宮から変化を起こす勇気を持つ!
しょうちゃん
気候市民会議

Q. 市民提案の実現に向けて、私たちにできること・求められることは何だと思いますか？
今ある資源を大切に使い、ごみに出す前に、リサイクルできるよう工夫したい。
てんちゃん
気候市民会議

Q. 市民提案の実現に向けて、私たちにできること・求められることは何だと思いますか？
電気を 作ります、貯めます、減らします、シェアします。
もりもり
気候市民会議

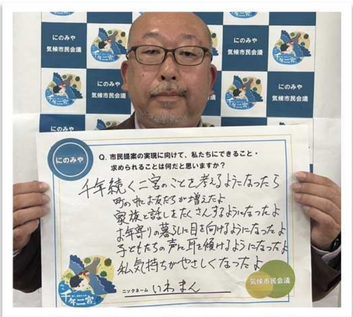
Q. 市民提案の実現に向けて、私たちにできること・求められることは何だと思いますか？
自然との共生ができる暮らし方を実現していく。後の世代にこれ以上ごみを残さない!
しず
気候市民会議

Q. 市民提案の実現に向けて、私たちにできること・求められることは何だと思いますか？
すぐにできることとして、省エネになるよう、すぐにエアコンを使うような生活をしない
そえちゃん
気候市民会議

Q. 市民提案の実現に向けて、私たちにできること・求められることは何だと思いますか？
家族で出かける時は毎回移動手段を話し合う!
気候市民会議

にのみや
Q. 市民提案の実現に向けて、私たちにできること・
求められることは何だと思いますか？
・山の再生：CO2吸収源の木の植林
・省エネの推進
照明・待機電力
・焼却に優しい家庭ゴミに
ニックネーム

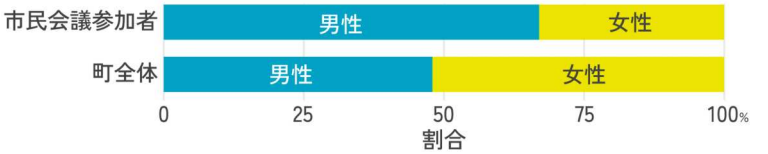
にのみや
Q. 市民提案の実現に向けて、私たちにできること・
求められることは何だと思いますか？
地球規模の問題をいかに個人個人が展開できるか。
町民全体にどう展開し、一致した行動につなげるか。
さらに、その行動をどう評価して(数値化)継続
展開していくか見まもっていきたい
ニックネーム 山川輝夫
気候市民会議


にのみや
Q. 市民提案の実現に向けて、私たちにできること・
求められることは何だと思いますか？
千年続く二宮のことを考えるようになったら
町の中にお友だちが増えたよ
家族と話しをたくさんするようになったよ
お年寄りの暮らしに目を向けるようになったよ
子どもたちの声に耳を傾けるようになったよ
私気持ちがやさしくなったよ
ニックネーム いわまん
気候市民会議

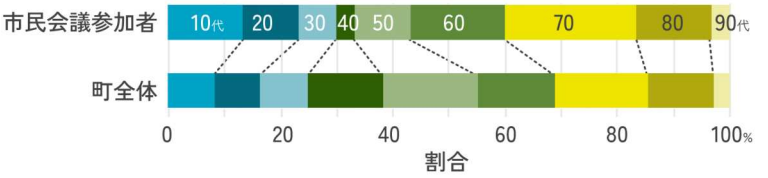
にのみや
Q. 市民提案の実現に向けて、私たちにできること・
求められることは何だと思いますか？
勉強になりました。
ニックネーム
気候市民会議

にのみや
Q. 市民提案の実現に向けて、私たちにできること・
求められることは何だと思いますか？
○子供たちの 環境教育の重要性
○町民・事業者・行政の
連携・協働の仕組み
の必要性
ニックネーム
気候市民会議

無作為抽出によるアンケート（1,000 名）での案内および広報紙などによる募集の応募者の中から、性別・年齢・地域構成を考慮して 30 名が選ばれ、会議に参加しました（図 9.1）。



(a) 男女比



(b) 年齢構成

図 9.1: 会議参加者の構成

5 月から 11 月にかけて、全 5 回の日程で会議を開催しました（表 9.1）。

表 9.1: 会議日程

	第 1 回 5 月 19 日（日）	第 2 回 7 月6 日（土）	第 3 回 8 月 25 日（日）	第 4 回 10 月 20 日（日）	第 5 回 11 月 24 日（日）
	江守 正多 氏	井上 岳一 氏	勝田 悟 氏	室田 憲一 氏 （ファシリテター）	室田 憲一 氏 （ファシリテター）
講師	東京大学 未来ビジョン研究センター 教授	日本総合研究所 創発戦略センター エクスパート	東海大学大学院 人間環境学研究科 教授	東海大学 教養学部 人間環境学科 教授	東海大学 教養学部 人間環境学科 教授
講演	気候変動問題の全体像	CO_2 吸収源	CO_2 吸収源	-	-
議論	ワールドカフェ ・会議の名称決め ・二宮町らしさ	ワークショップ ・CO_2 発生源に関わる授業	ワークショップ ・CO_2 発生源に関わる授業	ワークショップ ・これまでの振り返り ・提案とりまとめ	ワークショップ ・提案とりまとめ

第 1 回から第 3 回には、講師による講演を通じて、気候変動問題の全体像や二酸化炭素の吸収源と発生源について学びました（図 9.2a）。得られた学びを活かして、第 2 回以降のワークショップでは、二宮町の将来像とその実現に向けた取り組みのアイデアを出し合いました（図 9.2b, c）。

当初予定していなかった第 3.5 回を臨時で開催し、第 4 回に向けてテーマを分類しました（図 9.2d）。

第 4 回と第 5 回には、参加者は「自然環境」、「エネルギー」、「移動」、「循環型社会」の 4 グループに分かれて、市民提案書の取りまとめを行いました（図 9.2e, f）。

(a) 第 1 回

(b) 第 2 回

(c) 第 3 回

(d) 第 3.5 回

(e) 第 4 回

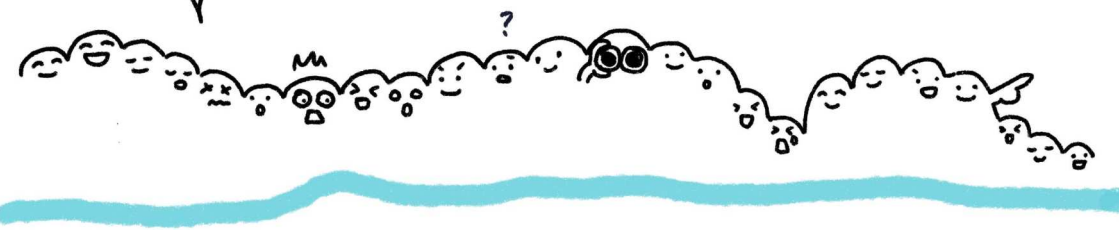
(f) 第 5 回

図 9.2: 会議各回の様子

1000年先まで見つめながら

ワィワィ　ガヤガヤは

まだまだ続く…



にのみや気候市民会議
市民提案書

作成：にのみや気候市民会議 参加者一同
環境づくりフォーラム・地球会議チーム

協力：二宮町